



消防団広報



- 2ページ 水防訓練・長島方面団
- 3ページ 新人教育・視察研修・竣工式・新任紹介
- 4ページ 多度方面団
- 5ページ 特集: マグニチュードと震度
- 6ページ 女性消防団

「救助資機材搭載型」消防ポンプ自動車」が、総務省消防庁より桑名市消防団長島方面団第一分団に配備されました。

第三十三号 二〇一五年十一月
編集・発行
桑名市大字江場七番地
桑名市消防団 企画情報部会



この度、東日本大震災の教訓を踏まえ、今後想定される大規模地震や各地で発生している台風等の大規模自然災害に備えるため、地方公共団体において地域防災力の中核である消防団の充実強化を図る目的で、総務省消防庁より「救助資機材搭載型消防ポンプ自動車」が、桑名市消防団に無償貸付されました。

今後は、当該車両を用いた訓練を実施した上で、訓練成果及び資機材等の有効性について検証を行ってまいります。

水防訓練

消防機関の連携・水防体制の万全を

五月二十四日



長島運動公園にて市土庫消防団、消防本部により、桑名市水防訓練が開催されました。

訓練は、台風の北上に伴い県内全域に大雨洪水警報が発令され、市内の河川が増水し、堤防が崩れる恐れのある状態を想定して行われ、開会式後直ちに、水防対策本部長の伊藤徳宇市長より柴田消防団長に出勤要請が有りました。

初めに、消防団・消防本部による土の作りを行い、続いて長島方面団の竹流し工法、多度方面団・桑名方面団の釜段工法、長島方面団・桑名方面団による月の輪工法、最後に全方面団・消防本部による積み土のう工法を実施しました。

近年ゲリラ豪雨による災害が度々発生しております。そのことも踏まえ、私達消防団員はこの訓練を通して有事に備える決意を改めて致しました。

長島方面団

消防技術競練会

三月十五日

早春の長島町平方防災コミュニティセンター駐車場において長島方面団消防技術競練会を実施しました。

この訓練は、実戦を想定した警防訓練を通じ、厳正な規律、安全管理、確実・迅速な防衛活動と技術の向上を目指し、また消防団員相互の連携を図ることを目的として行われています。

本年度は水利部署までの狭路車両走行に始まり、吸水から想定される火点二か所へ放水するまでの一連の消火活動を、指揮者以下四名を先着隊、二名を後着隊に分けて行われ、訓練タイムの短縮はもちろんのこと、特に安全・確実な活動が指揮者の指示のもと的確に行われるか否かが競われました。

事前の訓練を通じては、各分団間での情報共有や競技内容の検討・協議も積極的に行われ、分団の枠を超えた連携を生む結果となっています。

年々、分団間の実力は均衡してきており、次年度からますます切磋琢磨されていくことだと思えます。

なお、結果は次の通りです。

- 一位、第五分団
- 二位、機動分団中部班
- 三位、第三分団



瑞宝単光章叙勲

元桑名方面団長 小川 勝昭様が、平成二十七年春の叙勲にて、長年の消防団員としての功績により、瑞宝単光章を受章されました。

新人教育

四月十九日

長島防災コミュニティセンターにおいて、新入団員教育訓練が行われ、現職の消防職員の方々に、規律及び器具取扱の指導をしていただきました。

規律訓練では、特に統率した動きができるよう指導していただきました。今後は教えていただいたことを活かし、正確に行動できるようにしていきたいです。

器具取扱訓練では、実際にホースを伸ばし、器具の取り扱い方を丁寧に説明して頂きました。災害時には素早く行動できるように、さらに上達していきたいと思えます。



今回の訓練を通して、あらためて団員になったことを自覚しました。地域防災の役に立てるよう、頑張っていきたいと思えます。

訓練終了後には、柴田団長より辞令をいただきました。

幹部視察研修

六月十三日・十四日

福井市防災センターと敦賀原子力館で消防団幹部視察研修が行われました。

行きのバス車内では、防災ビデオ「3・11岩手県あの日・あの時、決して忘れない」のビデオを見て学びました。

視察先の福井市防災センターは、六十七年前の福井地震を教訓に設立されたもので、当日は一階・備蓄倉庫、一階・体育館、外・ヘリポート等の施設説明をして頂きました。体験コーナーでは五種類の体験をしました。

①地震体験では、室内で座った状態で、福井地震と同じ規模の揺れをおよそ四十秒体験
②火災体験では、消火器を使用して映像での天ぷら火災の

消火体験

③余震体験では、震度四〜五の、余震が外で地面や車等が、どんな風に揺れるか体験

④津波体験では、アラスカ地震の津波九メートルの映像体験

⑤台風体験では、小さな台風体験として、体験する部屋に入り、風速二十メートルの風を一分間受けてみて、体の自由が利かない事を学びました。五種類の体験で、災害に遭遇したときの対処法や、防災における事前準備の大切さについて学習できました。

また、敦賀原子力館では、施設内の設備説明及びバスによる外周見学をしてきました。



竣工式

車庫兼詰所 新設

三月二十九日



在良地区を管轄している桑名方面団第九分団詰所が、老朽化により旧消防署西分署跡地に移転新築されました。竣工式には伊藤徳宇市長はじめ自治会関係者・市議会議員・関係機関の皆様のご臨席を賜り、テープカットや施設の説明、見学などをを行いました。

この車庫兼詰所は、鉄骨二階建てで、一階に消防車車庫、二階に消防団員詰所が整備されています。今後は、新しい活動拠点として、「安全・安心なまちづくり」を目指し、地域住民の防災活動の推進に貢献できるように、全力を挙げて取り組んでまいります。

新任紹介

桑名方面団



副団長 尾崎 健治郎

この度、桑名方面団、副団長を命じられ重職の責任を痛感しております。今まで以上に責任を持ち、桑名市消防団員として、地域住民の皆様様の生命と財産を守り、安心して暮らしていけるように微力ですが、努力し消防活動に取り組んで行きたいと思っております。今後共、皆様のご協力をお願い致します。

その他一部の分団長が、新任されました。

第六分団 加藤 昌則
第十二分団 中川 幸徳

多度方面団

第一分団 松永 憲久
第二分団 伊藤 貴浩
第三分団 水谷 慶太
第四分団 伊藤 太志

長島方面団

機動分団 佐藤 卓也
第三分団 伊藤 秀年
第五分団 内藤 知樹

多度方面団

規律訓練・水防訓練

四月二十六日



新年度を迎え新たな体制となった多度方面団では、基本的な技術の習得と確認を行うため、多度町総合支所駐車場で規律・水防訓練に臨みました。

訓練前半の規律訓練では、停止間動作や駆け足呼称のほか、ホース延長訓練などを行い、特に新入団員に対しては副団長が付きっ切りで指導するなど熱のこもった訓練により、消防の任務を遂行するための基礎を築きました。

訓練後半の水防訓練では、梅雨や台風、集中豪雨への備えとして一斉に土のう拵えを行ったあと、水位が上がり、水が堤防を越えそうな時に行う「積み土のう工」、堤防などから漏水した時に漏水口の拡大を防ぐ「釜段工」といった水防工法を実施しました。

不慣れた体制で臨んだ訓練でしたが、最後には方面団が一丸となって活動する様子が見る事ができました。

夏季訓練

七月五日

火災防衛活動に必要な消防ポンプの基本的な取扱を身につけるため、多度総合支所駐車場で消防ポンプ取扱い訓練に臨みました。

方面団としては約半年ぶりとなる消防ポンプを活用した全体訓練であり、新入団員にとっては初めての実践的な消火訓練となります。

訓練は防火水槽を水利とし、消防ポンプ車による揚水、ホースの延長を行い、放水により標的を倒すものであり、団員相互の連携と的確な動作が

求められるため、団員たちは一つ一つの動作を慎重に確認しながら訓練に取り組んでいました。



梅雨時で降雨の続くなか、図つたように雨が上がり、団員たちが集中して訓練に励んでいる姿は、非常に頼もしく感じられました。

普通救命講習

八月二日・九日

消防署多度分署で二日間に分けて団員の三分の一を対象とした普通救命講習を実施し、女性消防団の方々に指導していただきました。

一次救命処置の重要性が注目され、一般の方でもAEDが使用できるようになって久しいですが、いざという時に

慌てなくてすむよう、定期的な訓練をしておく必要があります。

多度方面団では全ての団員が三年ごとに再講習を受けるようにして、万が一の事態に備えています。

みな久しぶりの受講で戸惑いながらの訓練となりましたが、人の命に直接関わる訓練ということもあり、真剣な表情で心肺蘇生法やAEDの操作に取り組んでいました。

講習の最後には女性消防団による応急手当の実演もあり、実践で生かせる技術を身に付ける事ができました。



団員募集

一緒に社会貢献しませんか！
入団資格
十八歳以上の市内在住または勤務されている健康かつ、やる気のある方。

活動内容
男性 住居地または勤務地の分団に所属し火災・災害・訓練に出動
女性 団本部付け消防団として、桑名市内全域にて予防・防災活動

特典

市内の消防団サポート事業所にて「桑名市消防団員証」を提示すると、各種サービスや割引を受ける事が出来ます。サービス内容は事業所にて異なります。





◇◇◇◇ 特集：マグニチュードと震度 ◇◇◇◇

地震が発生すると、「この地震の震源は〇〇、規模はマグニチュード△、震度◇を記録した地域は※※です」といったような発表があります。

『マグニチュード』と『震度』は、混同されやすいのですが、別のモノです。

マグニチュードと震度はどう違うの？

2015年5月30日に小笠原諸島近くで「巨大地震」が発生しました。マグニチュードは、「8.1」と発表されています。これは阪神淡路大震災（7.3）よりはるかに大きい、正に巨大な規模の地震でした。それにも関わらず、建物の倒壊などは無く、数名が軽傷を負ったのみで、大きな被害はありませんでした。

それは、マグニチュードが、震源（地震の発生した場所）での地震の強さを表しているからです。小笠原の地震は、震源が地下682kmとかなり深かったために、地震が私たちが生活する地表に達するまでに弱くなっていたのです。対照的に、阪神淡路大震災では、震源が、地下16kmという浅い場所にあり、しかも都市部に近かったため、大きな被害をもたらす事になったのです。

実は、揺れの大きさである「震度」を比べてみると、小笠原の地震の「最大震度5強」に対して、阪神淡路大震災では「最大震度7」と、大きさが逆転しているのです。



気象庁では、マグニチュードと震度を電球に例えて説明しています。

電球に近い場所は明るくても、電球からの距離が遠くなればなるほど、暗くなってしまいますね。

この場合の、電球自体の明るさが『マグニチュード』で、電球に照らされた場所の明るさが『震度』と考えるとわかりやすいと思います。だから、マグニチュードは一つの地震に一つしかないけれど、震度は場所によって違うのですね。

日本列島は地震列島です

地震の規模（マグニチュード）が大きく、震源から近いほど、地震の揺れや被害が大きくなる（震度が大きくなる）というのがわかったと思います。

震源になりやすい場所には色々な種類がありますが、残念ながら、日本列島は、近くに多くの震源候補地がある「地震列島」なのです。大きな震度、つまり、大きな被害を伴う地震は避けられないと言っていいでしょう。



地震の被害を少なくする事は出来ます



地震が避けられないからと言って、手をこまねいているわけにもいきません。

揺れの強さを示す「震度」は、「0」「1」「2」「3」「4」「5弱」「5強」「6弱」「6強」「7」の10階級に分けられています。

小笠原の地震での最大震度「震度5強」は「固定していない家具が倒れる事がある」と定義されています。阪神淡路大震災の「震度7」は「耐震性の低い木造建築は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。」とされています。



ここで逆に考えてみましょう。

「家具を固定すれば」震度5強の地震で家具が倒れてケガする事もないし、「耐震性を高くすれば」震度7の地震でも、家が倒壊してしまう事を防げるということではないでしょうか？

地震を防ぐ事は出来ませんが、地震の被害を最小限にすることは出来るのです。

参考資料：気象庁ホームページ、石垣島地方気象台ホームページ



女性消防団の活動はブログでもご覧いただけます。
桑名市女性消防団 **検索** ←クリック！

今年も、各地区の消防団員向けにも、普通救命講習の指導を行っています。



このような日頃の活動が認められ、10月に横浜で行われる全国女性消防操法大会で披露される「消防団防災学習・災害活動車両」を、私たち桑名市女性消防団が代表して紹介することになりました。

この車両は、平成26年度に10台が全国の消防団へ交付されました。車両には様々な資機材が収納され、用途に応じて積み替える事が出来ます。普段は防災学習や防災指導に活用し、万一の災害時には緊急車両として、消防団員や消火・救助資機材等を運び、現場での活動や指揮に活躍します。

10月の披露では、私たちは、車両に収納されたAEDトレーナーなどの資機材を使用して、応急手当の指導実演を行います。



女性消防団



平成27年秋



消防団防災学習・災害活動車両



消火用ポンプ



パソコン



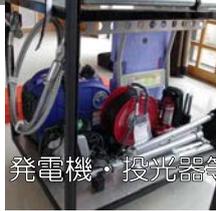
消火用ホース

避難救助セット



プロジェクター

天ぷら油実験装置



発電機・投光器等



各種資機材



パワーゲート付き



AEDトレーナー



訓練用
水消火器

地域のために女性の優しさ・細やかさを活かして、一緒に活動しましょう！ 団員を募集しています。

くわしくは→ 桑名市消防本部 総務課 TEL24-5274



その他にも様々な活動を行っています



防災紙芝居



防災カードゲーム



水防訓練

各地区自主防災訓練
 高齢者宅防火訪問
 女性団全国大会(佐賀)出初め式
 三重県女性団研修会